

IV-101

東大阪市における工業集積の実態に関する研究

大阪工業大学工学部土木学科 学生会員 野村隆文、同 非会員 石原良純、同 正会員 岩崎義一

1. 目的

地域の経営には産業が必要であり、産業活動の空間を保障していくことは土木計画、都市計画の重要な課題である。本研究は、産業活動空間の整備に不可欠な計画情報の蓄積を図ることを目的に、工業集積の高い東大阪市を取りあげ、工場の集積タイプと特質を明らかにしたものである。なお、本研究は、具体的な地区調査につなげていくための基礎的な作業に位置づけられるものである。

2. 東大阪市の工業構造の基本特性

近年における本市の工業は、工場数が1985年に2264件（全国439518件：4人以上の事業所）あったものが1995年には1955件（同：387726件）にまで減少しており、減少率が13.6%（同：11.8%）と工場の減少が進んでいることがわかる。これを1995年時点での工場数の上位10業種までを取りあげて変化をみると、最も多い金属製品が増加傾向にあって、一般機械が減少、プラスチックが増加している（図-1）。上位2業種で全体の約45%を占めており、機械金属工業の集積地となっていることがわかる。

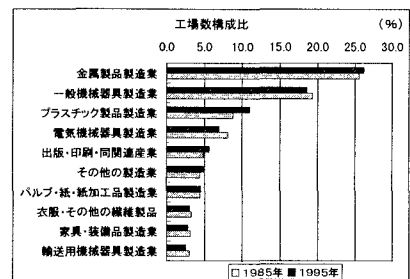


図-1 東大阪市における工場数の増減

3. 工業集積の特質

工業集積のパターンをみるには、街区別業種別に詳細に整理を行い地理的特徴を把握する必要がある。しかし我が国でも有数の工業集積地と言われながら、これの分析された資料は存在しないのが実情である。また、この作業を行うための統計データも秘匿処置のため公表されていない。そこで、商工名鑑¹⁾を用いて分析を行うことにした。なお名鑑データの利用可能性について、全市ベースでの統計データと名鑑データの工場数変化の相関をみることによってチェックを行った。

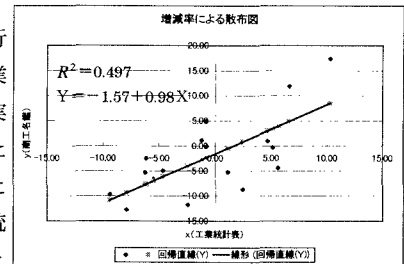


図-2 統計データと名鑑データの工場数増減の相関

(1) 商工名鑑データの利用可能性チェック：図-2は、統計データ²⁾と名鑑データとの業種別工場増減数の相関をみたものである。これによると、統計データで増加または減少している業種は名鑑データでも同じ傾向となっており、寄与率 $R^2=0.497$ と低い値を示すが、利用可能と判断した。なお、ここで用いた各データの業種分類は一致していないため、統計データの細分類を名鑑データの業種分類に集約・分類して整合性をもたせている。

(2) 街区別集積の特質：ここでは上記、相関分析の中で両データの増減の特徴が一致している傾向が高い12業種を取りあげ、街区別工場数の増減と工場立地分布をもとに特質を整理することにした。表-1は、12業種の中で特定の地区に工場の集中立地が見られる等、特徴ある9業種の主要な特徴をまとめたものである。図-3は、この9業種の中の特に典型的な立地パターンを示す2業種を示している。

キーワード：東大阪市、工業開発、産業立地環境整備

連絡先：京都府熊野郡久美浜町佐野 1133-1 TEL(0772)-84-0150

表一 9 業種の主な特徴

名鑑分類	主な特徴
機械器具製造業	小規模な工場が多く立地する工業地域(高井田)と住居地区に隣接している工業地域(布施)において減少し、工業専用地域(加納、水走)で中規模工場が増加している。
電気機械器具製造業	小規模な工場が立地する工業地域(高井田、布施)は減少し、中規模な工場の立地する工業専用地域(加納、水走)は増加している。
ねじ類製造業	小規模な工場が多く立地する工業地域(高井田)、住居地区に隣接している工業地域(小阪)において減少し、中規模な工場が立地する工業地域(水走、今米、角田)で増加を示す。
鉄線・非鉄線製造業	枚岡地区に小、中規模の工場が集積し、その中でも住居地域に集積する工場は減少し、一部で中、大規模の工場が近鉄奈良線付近に分散化している等、全体的に市街地に分散化している。
作業工具類製造業	住居地区(四條、六万寺)に隣接する小規模な工場と工業専用地域(加納)に集積する工場は減少し、一部の工場地域(弥生、宝町)に増加を示す。
金物・金属製家具	小、中規模な工場の立地する工業地域(高井田、布施)で減少し、中規模な工場が立地する工業地域(加納、水走)では増加を示す。
合成樹脂・同加工業	小、中規模の工場が立地する工業地域(布施)で減少し、中規模の工場が立地する工業地域、工業専用地域(加納、河内地区)では増加を示す。
繊維・衣服等製造業	各工業地域に多様な規模の工場が分布し、小、中規模の工場が立地する工業専用地域(布施)で減少し、中規模な工場が立地する工業専用地域(加納)では増加を示す。
紙製品加工・印刷業	小中規模な工場が立地する工業地域(布施)で減少し、中規模の工場が立地する各工業地域(加納、高井田、枚岡、渋川)では増加を示す。

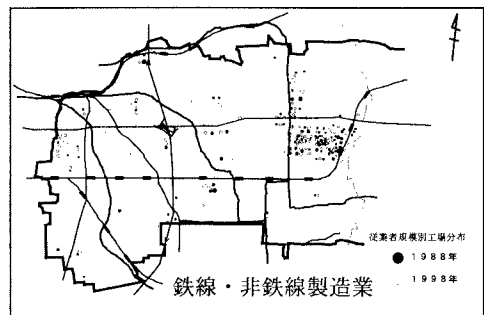
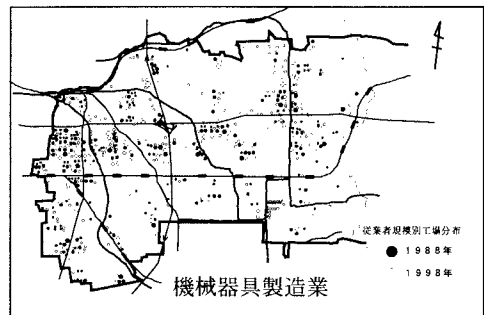
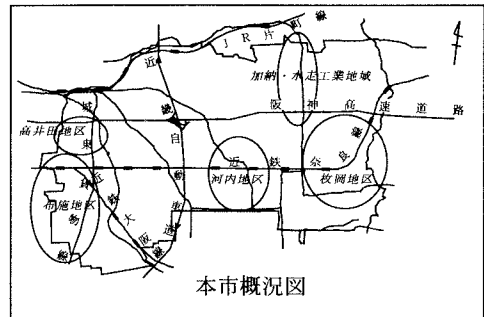


図-3 本市の概況と機械器具製造業と鉄線・非鉄線製造業の工場立地分布

4. まとめ

鉄線・非鉄線製造業・作業工具、その他の工具類製造業などの業種は、枚岡地区などに偏って集積していることが明らかになったが、これら業種は、明治初期より生駒山系の急渓流を動力に農山村に集積を形成したことに始まり都市化などの立地条件の変化によって次第に分散化していったと言われている³⁾。分散した結果が現在の集積パターンと考えられるが、集積状況から見て、現在でもその名残が強く認められる。一方、機械器具製造業・電気器具製造業などの業種は、高井田・布施の地区と加納・水走の地区に集積している。主に準工・工業地区に指定されている前者の地区では中小工場が減少傾向にあり、工業専用地域に指定されている後者の地区では中規模工場が増加傾向にある。このような特性から見て、集積パターンには用途地域の指定と業種の歴史的経緯などが強く影響していると考えられる。こうした工場数の増減が進行している地区では産業活動にふさわしい都市環境の整備が課題になっており、これに対応し産業立地環境整備を進める為には今回の研究で明らかになった枚岡地区や高井田、布施などの地区を重点的に調査していくことが重要と考えられる。

文献：1) 東大阪商工会議所編「東大阪商工名鑑 H10」

2) 通商産業省編「工業統計表」、1985,1995

3) 湖中 齋「東大阪の中小企業」、東大阪商工会議所発行